

造影剤検査を受けられる方へ

造影剤について

造影剤とは、画像診断において画像コントラストをつける検査薬で、病気の有無・性質・範囲などをより正確に判断するために用います。通常、静脈内に注射して投与します。投与された造影剤は、腎機能が正常であれば速やかに腎臓から尿として排出されます。

造影剤の副作用について

軽微な副作用も含めて、CT・血管撮影・尿路撮影用造影剤では5%以下、MRI用造影剤では2%以下の患者様に何らかの副作用が生じるといわれています。軽い副作用としては、くしゃみ・かゆみ・発疹・吐き気・動悸などがあり、治療が不要かせいぜい1～2回の投薬・注射で改善するものです。重い作用は血圧低下・呼吸困難・意識障害などがあり、場合により0.04%、MRI用造影剤で0.01%程度といわれています。また非常に頻度は低いですが10万人から20万人に一人程度の割合で死亡例も報告されています。

遅発性副作用について

ごくまれに数時間から数日後(多くは2日以内)に副作用が現れることがあります(発疹、かゆみ、むくみ、吐き気、のどのイガイガ、咳、冷や汗、動悸、脱力感、めまい等)。また注射部位の痛みが数日間持続する場合もあります。

血管外漏出について

検査内容によって勢いよく造影剤を注入する為、血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には注射した部位が腫れて痛みを伴うこともあります。通常は時間がたてば吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が非常に多い場合には治療処置が必要となる場合があります。

検査前のご注意

1. 食事制限

午前の検査の方は朝食を、午後の検査の方は昼食を取らないようにしてください。

お薬(一部の糖尿病薬以外⇒下記2.を参照)はいつも通り内服しても構いません。

水分摂取の制限はありませんが画像に影響を与える可能性があるため、検査前は水を摂取しジュースやお茶などは避けてください。

2. 一部の糖尿病薬の制限(ヨード系造影剤を使用する検査前後2日間の休薬)

以下の糖尿病薬を内服の方は 月 日()～ 月 日()まで内服を中断してください。

(メルビン・メトホルミン・グリコラン・ネルビス・メデット・メトリオン・ブホルミン・ジベトン・ジベトス)

※他院で糖尿病薬を処方されている患者様は、ご自身で担当医師へのご連絡をお願いします。

3. 授乳について

授乳中で検査を受けられる場合検査前に2日分の搾乳を行ってください。検査後2日以内に搾乳した母乳は捨ててください。(造影剤が母乳に移行する恐れがあります)

検査後のご注意

1. 造影剤を早く体外へ出すために検査前と同様に積極的に水分を取って下さい。(コップ2杯程度)

2. 検査終了1時間～1週間までの間に発疹や痒みなどの皮膚症状が遅れてあらわれる場合があります。そのような症状が出た場合は当院までご連絡ください。

検査前後についてご質問等ありましたら、担当医師もしくは放射線科にご連絡ください。

電話 03-5343-5611(代表) 放射線科内線11510